

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

富山市立熊野小学校
深井 美和

1 単元名 「レッツトライ！われら熊野川調査隊」

2 単元の目標

- ・ 教科で学習したことや実際に体験したことを基にして、自分の調べたいテーマをもつことができる。 (課題設定能力)
- ・ 情報を収集し、自分なりの方法で調べ、自分の考えを導き出すことができる。 (問題解決能力)
- ・ 調べたことが相手に分かりやすく伝わるように、言葉や写真、図表の使い方を工夫してまとめることができる。 (表現力)
- ・ 地域に目を向け、学んだことを生かして、自分にできることから行動することができる。 (自己を振り返る力)

3 単元について

(1) 児童の実態

子供たちは、全体的に活発で、体験を通した活動に意欲的に取り組む。また、昨年度の「熊野のとおき」「熊野の名人」の学習では、調査活動の楽しさや地域の人々とのふれ合いのよさを感じ取っている。しかし、1年間を通してついた力についての問いかけでは、「調べたことをまとめる・発表する力」「自分を振り返る力」に対する苦手意識や自信のない解答が多く、子供たちも足りない力であることに気づいている。

そこで、本学習では、五感を使って体験する活動を通して、熊野川をより身近にとらえ、驚きや不思議、よさを探るとともに、川を調べる活動を通して、地域の環境について考え、環境を守るために自分たちができることを実践し、他に伝える活動へと発展させていきたいと考えた。

本校では、毎年「熊野川」を取り上げているが、熊野に住んでいる子供たちにとって熊野川はあまり生活とかかわりのない遠い存在である。熊野川は熊野の地域を流れる川として、昔は泳いだり魚を釣ったりできるきれいで楽しい場であったと年配の人は話す。そこで、地域に生きる子供として、現在の様子と昔とを比較したり、未来に向かって自分たちができることを考えることは意義のある活動であると考えた。また、4年生で川を取り上げる際、社会科の学習と関連させ、「ごみ」や「水」という視点から熊野川を見つめ直すこともできる。川に入り、ごみを拾い、生き物にふれたりしながら、一人一人が自分の関心のあるテーマをもち、「もっときれいな川にしたい」「汚れの原因は何か」「熊野川を守っていききたい」など、地域の川への気持ちの高まりが主体的な追究につながり、自分たちができることを実践する言動力になるのではないかと考え、本単元を設定した。「われら熊野川調査隊」では、体験を通して学び、関心のあることを自分なりの方法で調べたり、感じたことを表現したり、行動に移したりすることができる子供になってほしいと願っている。自分なりの熊野川へのかかわり方を考えさせ、地域の一員として、川を好きになり、守っていこうという心をもった子供に育てていきたい。

(2) 研究主題との関連

自ら課題を見つけ、主体的に追究し、自分の生き方を考えていこうとする子供の育成を目指して

児童の実態を踏まえ、熊野川に対する気持ちの高まりを促すための支援、総合的な学習の時間の基礎となる力を高めるための支援を単元構想、学習過程、評価の3つの視点から考えることで、研究主題の解明を目指したい。

主体的に追究できる単元構想

【単元を通して身に付けたい資質や能力と教科等との関連の図り方】

自分とのかかわりで熊野川への思いや願い、こだわりをもち、教科等で身に付けた知識や技能、生活経験などを総動員して解決を図ろうとするような単元構想をすることで、「熊

野川のために何かしたい」という気持ちの高まりが、もっと知りたい、何とかしたいという子供の意欲を高め、主体的な追究につながると考える。

本単元では、国語科「新聞記者になろう」「伝え合うということ」での学び（取材の進め方、情報の取捨選択の仕方、相手や目的に応じたまとめ方・伝え方の工夫等）や社会科「住みよいくらしをささえる」での学び（見学や調査の方法、よりよい生活に向けての思考・判断等）等を関連づけ学習を進める。例えば、社会見学の新聞作りの「適切に書く」では、相手意識や目的意識をもち、記述の際だけでなく、書く材料の収集や選択、構成においても相手や目的に応じて工夫することが必要になる。そこで、新聞を作る過程で「調べたことが相手に分かりやすく伝わるように、言葉や写真、図表の使い方を工夫してまとめることができる」力と関連づけて育てていくことができると考える。また、社会科での「ごみ」「水」という視点から熊野川を見つめ直すことで、ごみの分別・減量化が環境保護に関連していることに気づき、自分にできることを考えて提案したり、きれいな川の水を守るために日常生活で心がけるべきことを考えて行動したりすることができ、地域社会の一員としての自覚をもち、学んだことを生かして行動する子供の姿が期待できる。

追究を連続・発展させる学習過程

【切実感のある課題を生むための体験活動や話し合いの場のもち方】

川探検やクリーンセンター・下水処理場等の社会見学、国土交通省などの専門機関や地域の方々との連携、同じようなテーマで学習を進めている他校との交流など、子供の意識の流れに沿った体験活動を適宜仕組んでいく。また、社会科の学習で導入したNHK番組「命をうばうごみ」「命の水」「たった一つの地球」を継続視聴）で感じたり考えたりしたことを常に自分たちの地域のごみ・水・川と結びつけて考えていく。そうすることで、一人一人の子供たちが熊野川への思いをもち、そこから自分にとって切実感のある課題を見つけ、体験や話し合いを通して、思いを見直しながら追究を進めていくことができると考える。

さらに、本単元では、夏休みの研究発表を兼ねて中間報告会を設定する。一人一人の追究とのかかわりから話し合いの課題を設定したり、話し合いの中で見方や考え方、取り組みの違いが明確になるように位置づけたりすることで、友達のよさを取り入れたり、活動の意味を再確認したりして、次の活動への見通しをもてるようにしたいと考える。

【視点を広げ、多様な気づきを生み出す場の設定】

多様な調べ方をしたり、仲間の取り組みを参考にしたりできるように情報機器を活用する。NHKデジタル教材（川・しらべてゴー・たった一つの地球）を活用することで、自分たちの調べ方の参考にしたり、実際にはなかなか見ることのできない映像から新たな発見や環境を守ることの大切さを感じたりすることができる。また、Web学級日誌・電子掲示板・メールでの発信を通しての情報交換から新たな視点をもらったり、共通点や相違点を実感したりすることもできる。国土交通省の方や地域の方との連携を深め、直接話を聞く機会を設けることで、知りたいことがより具体的に分かったり、違った視点から川を見つめ直したりすることができ、多様な見方・考え方をすることにつながると考える。

追究を見つめる評価

【自己のよさや高まりを自覚し、自信をもつようにするための子供自身の自己評価や相互評価の方法とその生かし方】

評価の観点は、単元の最初のオリエンテーションで提示する。それをもとにできるだけ具体的な活動レベルにまでおろした目標を子供たちと共につくっていくことで、子供たち自身がなりたい自分を意識しながら見通しをもって活動していくことができると考える。自己評価カードを短時間で書くことのできるものにし、自由記述の部分で自分の活動や熊野川への思いを記録させていく。その記録を基に、熊野川に対する思いを話し合う場やこれからの取り組みを振り返る場を設定し、子供が自分のよさや高まりを自覚できるような支援を行っていきたい。

中間報告会での子供たちによる相互評価や、学習の成果の発表の場での保護者や地域の方、専門家の方々からの外部評価によって、充実感や成就感を得たり、自分の成長を実感したりできるようにしていきたい。

4 本単元に関わる主な活動の歩みと活動計画（45時間）

【活動のねらい】

【学習活動】

【指導上の留意点】

第1次（25時間）われら熊野川調査隊 ～熊野川のことを知ろう～

熊野川でのいろいろな体験を通して、川に対する関心を高め、自分なりのテーマをもつことができる。

個々の課題に基づいて熊野川を調べ、調べた結果を自分なりにまとめて、伝えることができる。

調べたことをもとに、熊野川のためにできることを自分なりに考える。

熊野川へ出かけて、川がどんな様子が観察する。

観察したことをもとに、調べたいテーマや課題をもつ。

・川にはどんな生き物がいるのかな
 ・どんなゴミがどれくらいあるかな
 ・熊野川の水は、どんな水なのかな

3つのグループに分かれて計画を立て、自分たちなりの方法で協力しながら調査活動をする。

・アユつりをしている人はいるけど、自分たちで魚は見つけられない。どじょうやタイコウチを見つけた。やっぱりあまりきれいな水ではないのかな。
 ・拾っても拾ってもごみがある。多いのは空き缶やペットボトル。生ゴミやプラスチックごみもある。どうしてこんなにポイすてをするのだろう。
 ・COD水質検査をしたら、8 ppm 以上のところもあり、思ったよりきかないことが分かりビックリした。やはり生活排水のせいだろうか。

自分たちのテーマについて、国土交通省の方の取り組みと川に対する思いを聞かせてもらう。

・メダカだと思っていた魚はオイカワの稚魚だということが分かり、少し残念だけど、熊野川にはたくさんの生き物がいることが分かってよかった。自分たちでも探してみたい。
 ・家庭のゴミや粗大ゴミがあちこちに捨てられていて、パトロールしながら回収してあげることが分かった。川にゴミを捨てないようにしてほしい。看板を立ててもいいと言われたから作ってみようかな。
 ・家庭の排水が川に流れ込んで、水を汚していることが分かった。年々熊野川がきれいじゃなくなってきた。100位と聞いてビックリした。大変なことだ。

これまで調べてきたことをふり返り、熊野川に対する気持ちを整理する。

・地域の川だから、生き物が安心して住めるきれいな川でいてほしい。
 ・ごみのないきれいな川であってほしい。自分たちでも拾い続けていこうと思うが、どうしたら川のごみが減るか考えてみよう。
 ・生活排水が熊野川に流れ込んでいるとしたら、もっとみんなが水の使い方を考えなくてはならないのでは。水を大切にいく方法を調べてみよう。

・個々の関心に応じた川での調査を仕組むことで、川を様々な視点から捉えたり、社会科の学習「ごみ」「水」という視点から川を見直してみたりするようにし、自分のテーマを設定するための基礎体験となるようにする。

・デジタル教材を活用したり、他校の取り組みを参考にしたりして自分なりの調べ方で川にかかわることができるようにする。

・体験や調査から分かったこと、考えたことを整理して記録するようにノート指導を行う。

・外部講師（国土交通省の方）から話を聞くことで、自分が気づいていない点や専門的な取り組みのよさに気づかせる。

・学習カードから子供の考えを捉えておき、気づかせたい点を明確にした上で個別に話をする場を設ける。

・話し合い活動では、調べた結果だけでなくそこから熊野川について考えたことや川への思いも語らせるようにする

・一人一人が自分なりの課題をもてるように個別指導を行う。

・国土交通省の方との現地調査やクリーン作戦など夏休み中も体験活動を支援する。

課外（夏休み）熊野川一研究

熊野川でのこれまでの活動を基に、もっと調べたいことを自分のテーマとしてもつ。

自分なりの方法で調べ、まとめる。

調べた結果から熊野川に対する思いを見直し、自分たちにできることを考える。

調べた結果を自分なりにまとめて、相手に分かりやすく伝えることができる。
調べたことを基に自分なりの考えをもつことができる。

自分のテーマについてこれまで調べたことを発表し合い、互いの取り組みを知る。(中間報告会)
クラスごとに、これまでの追究の結果熊野川に対する思いや伝えたいことについて話し合う。
クラスの意見を基に学年で話し合い、だれにどんなことを伝えたいかをまとめる。

・国語科での学習と関連づけ、調べたことを相手に分かりやすく伝えるための表現の工夫に気づかせる。
・発表では自分なりの考えを話せるように活動から感じたことや考えたことを明確にした原稿作りを指導する。

第2次(20時間) わたしたちの熊野川 ~ 熊野川のためにできることを考えて実行しよう~

熊野川のために自分たちができることを考えることができる。
学んだことを生かして自分にできることから行動することができる。
相手に分かりやすく伝えるための表現方法を工夫し、まとめることができる。
活動を通して、熊野川に対する関心を高め、愛着を感じることができる。

熊野川のためにできる活動の計画を立てる。(本時13/20時)
・ゴミ拾いや生活排水をきれいにするなど自分たちでできることをする。
・川をきれいにするためのいろいろな活動を紹介する。
・ちらしを作ったり、ホームページで伝えたりしながら、校内や地域の人にも呼びかけて、川をきれいにするための活動をする。
熊野川への自分たちの思いを全校や地域の人に発信し、ともに熊野川のためにできることを実践していく。
・学習発表会のステージ発表やポスターセッションでたくさんの人に聞いてもらおう。
・地域の人にもちらしを配ったり、川に看板を立てたりして、できるだけ多くの人に関心をもってもらいたい。
・ごみの分別の大切さやリサイクルのよさ、アクリルたわしなどの活用による水の使い方の工夫などをホームページで発信していこう。
・自分たちでできる活動をずっと続けていこう。下の学年の人にも伝えていこう。

・「自分たちにできること」という行動目標を設定することで、それぞれの熊野川に対する思いを具体的な活動で表現できるようにする。
・地域や関係機関との連携を図り、自分たちの追究が認められることによって自信をもち、次の活動への意欲がもてるようにする。
・自分たちの活動の歩みをふり返れるように掲示を工夫する。

5 本時の学習（38 / 45時）

(1) ねらい

伝えたいこととその理由が明確になっているか、聞いている人が実践してみようという気持ちになるかどうか、発表内容とその仕方について見直すことができる。

(2) 展開

予想される学習活動・子供の意識の流れ	教師の支援と評価の観点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>愛 kumano 博での の発表は、伝えたいことがうまく伝わっているかな。アドバイスし合おう。</p> </div> <p>1 今日のめあてを確認する。</p> <p>2 ごみをへらそうチームの発表を聞いて、思ったことやアドバイスを発表する。</p> <p>一方的に話している感じがするので、聞いている人の様子を見ながら、話しかけるように言った方がもっと関心をもってくれる気がする。 小さな声の人や早口になってしまう人がいるからゆっくりはっきり話さないと聞き取れなくて、何を伝えたいのか分からなくなってしまう。 聞き手を意識した話し方に気をつけよう。</p> <p>熊野川のことを調べているうちに、自分たちの地域の川だから何とかしたいという思いがだんだん強くなってきたことを話した方がいい。 川のゴミを拾っても拾っても捨てる人が減らない限りきれいにはならないから、たくさんの人に伝えて何とか気をつけてもらいたいと思ったことを最初にきちんと話した方がいい。 伝えたいこととその理由がしっかりと話されたり書かれていたりしているか確認しよう。</p> <p>写真入りのちらしはとても分かりやすくいいがポスターの方はたくさん書きすぎても見る人は読めないと思うので、文章ではなくキーワードのように書いて話す方で工夫したらいい。 ゴミを減らすための工夫をいくつか実演してみた方が相手にやり方もよく伝わるし、こんな簡単なことならやってみようという気持ちになってくるのではないか。 相手に分かりやすい表現になるよう工夫しよう。</p> <p>3 本時の話し合いをふり返り、考えたことや自分にも取り入れていきたいことをカードに書く。</p>	<p>・前時のふり返りで、今の時点でうまくいっていることと、不安なことをはっきりさせておき、話し合いの焦点を明確にしておく。</p> <p>・一つのグループを取り上げ、焦点を絞った話し合いになるよう配慮する。</p> <p>・各自の感想やアドバイスを付箋紙に書きとめる時間を設ける。</p> <p>・方法面と内容面が混ざって出てくると予想されるので、板書で整理して位置づける。</p> <p>・アドバイスについては、そういう方法がなぜ必要だと思ったのかを話させるようにする。</p> <p>・学年で話し合ったときの様子を思い起こさせる写真や映像を準備しておき、必要に応じてみんなで伝えたいことは何だったのかを確認できるようにする。</p> <p>・思いの背景となっていることを聞き返すなどして、伝えたい思いを掘り下げていく。</p> <p>・表現方法については、分かっていること何なのか、伝えたいことを明確にしていくための手段としての工夫を出していくよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今日の話し合いから、伝えたい思いとその表現方法について、自分たちの取り組みを見直すことができたか。(発表・カード)</p> </div>

(3) 視点

熊野川に対する思いや自分たちの取り組みをどう伝えたらよいか、話し合い活動の中でふり返らせるための教師の支援は適切であったか。